

第4章 訓練検証会

4.1 検証会の概要

平成 28 年 11 月 10 日に実施した平成 28 年度新宿駅西口地域地震防災訓練の実施内容について訓練参加者を中心に振り返りを行った。訓練の検証には KPT フォーマット（図 66）を使用し、訓練種別ごとのグループでワークショップによる成果と課題の抽出、整理、共有を行った。図 67 に訓練検証会の実施状況を示す。

以下に訓練検証会の実施概要を示す。

- ・ 名称：新宿駅西口地域地震防災訓練検証会
(平成 28 年度 第 3 回新宿駅周辺防災対策協議会西口地域部会)
- ・ 目的：平成 28 年度の地震防災訓練の実施内容を振り返り、その成果と課題を検証する
- ・ 日時：2016 年 12 月 14 日（木）14:00～16:30
- ・ 会場：新宿区役所本庁舎 5 階 大会議室
- ・ 参加人数：26 名 ※運営参加者を除く
- ・ プログラム
 - 14:00～14:05 開会のあいさつ
新宿駅周辺防災対策協議会 座長 宮崎 明浩 氏
検証会の進め方について
鯨沢工学研究所 代表 鯨沢 曜 氏
 - 14:05～14:50 新宿駅西口地域地震防災訓練実施報告
 - (1) 自衛消防訓練
株式会社セノン 教育部 課長 富樫 肇 氏
 - (2) 医療救護訓練
鯨沢工学研究所 代表 鯨沢 曜 氏
 - (3) 西口現地本部訓練
工学院大学 建築学部 教授 村上 正浩 氏
 - 15:00～16:25 訓練の検証（ワークショップ）
《進行》鯨沢工学研究所 代表 鯨沢 曜 氏
 - 16:25～16:30 閉会のあいさつ
新宿駅周辺防災対策協議会 西口地域部会長 久田 嘉章 氏

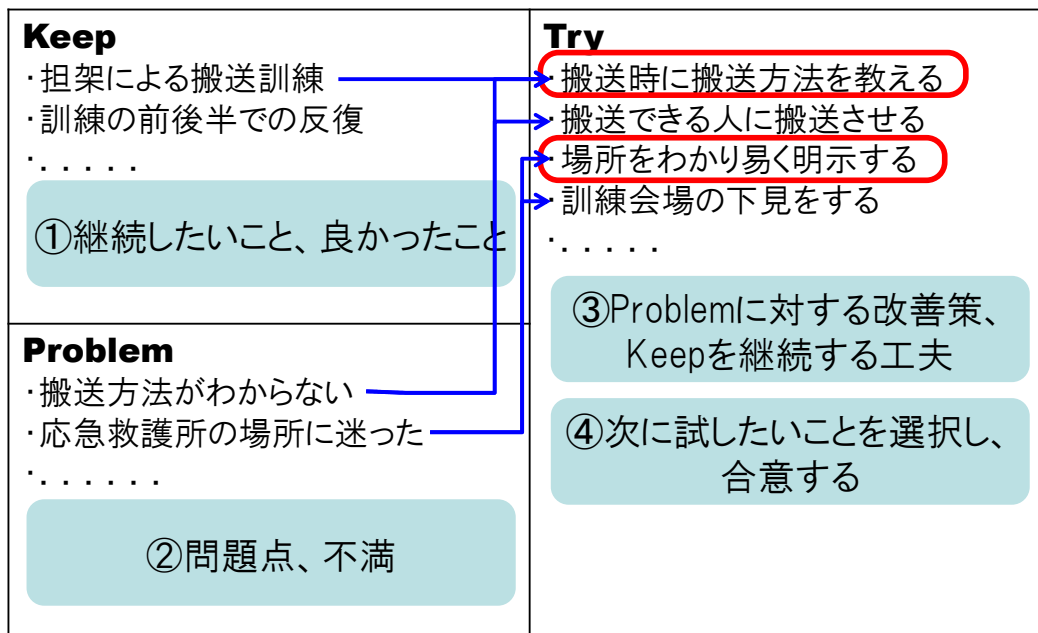


図 66 KPTフォーマットによる検証ステップ



図 67 訓練検証会の実施状況

4.2 検証結果

訓練検証会では、参加訓練ごとにグループを5つ作り、各グループで参加した訓練をテーマとするKPTを作成した。図68～図72に作成されたKPTを示す。

新宿駅周辺防災対策協議会		2016年12月14日 新宿駅西口地域地震防災訓練検証会	
テーマ：自衛消防訓練のふりかえり【1班：本部隊】			
WS参加者（訓練時役割） K.H（避難誘導・応急救護） R.S（初期消火・安全防護） Y.N（安全防護・応急救護） Y.H（見学） S.Y（見学）			
Keep（継続したいこと、良かったこと） 【訓練当日】 1. 手が空いた時に他の訓練の手伝いができた(K.H) 2. 応急救護で赤さんのその場講習(Y.H) 3. 前半(建物)後半(館内)に分けたこと(Y.H) 4. 2回に分けて行なう(R.S) 5. 前後半で役割を変える(Y.N)		Try（Problemに対する改善策、Keepを継続する工夫） 【年度はじめ】 1. はじめにメニュー・回棟を用意し講義・セミナーをしぼる(Y.H) 2. 事前に役割を決めて講習会に参加する(K.H) 3. 参加目的に合った事前講習会に入る(S.Y) 【事前】 4. 参加できなかった人向けに講習会のビデオを見せる(R.S) 5. 講習会の動画をHPにアップする(Y.N)	
Problem（問題点、不満） 【年度はじめ・事前】 1. 講習会(事前)・セミナーに出た方がほとんどいない(Y.H) 2. 事前講習の参加率が悪い(R.S) 【訓練当日】 3. 隊長からの具体的な指示がない(R.S) 4. 隊長の負担が大きすぎる(Y.N) 5. 地区隊の各班の動きがわかりにくい(S.Y) 6. 手順がわかりにくい(R.S) 7. 避難誘導班、誰をどこに誘導すべきかわからなかった(K.H) 8. 前半・後半が理解された？(Y.H) 9. 傷病者の待ち時間が長く感じる(S.Y) 10. 三角巾の使用方法が不十分(S.Y) 11. 館内放送トラブル(Y.H)		Try（Problemに対する改善策、Keepを継続する工夫） 【訓練当日】 6. 訓練のレベルを下げるか種類をへらす(Y.N) 7. 訓練メニューもしぼる(今は多すぎ？準備が不十分)(Y.H) 8. 当日でも良いから流れの確認をする(K.H) 9. 1回目の隊長をよく分かっている人にやってもらう(R.S) 10. 隊長はアドバイザーが兼任する(Y.N) 11. 経験者と初心者に分けた訓練(Y.H) 12. 訓練時の現場講習の充実(Y.H)	

図 68 KPTフォーマットによる検証結果（自衛消防訓練1班（本部隊））

新宿駅周辺防災対策協議会		2016年12月14日 新宿駅西口地域地震防災訓練検証会	
テーマ：自衛消防訓練のふりかえり【2班：地区隊】			
WS参加者（訓練時役割） S.K 1（安全防護・避難誘導） S.K 2（初期消火・安全防護） Y.S（初期消火・安全防護） K.H（見学） H.S（見学） K.T（見学）			
Keep（継続したいこと、良かったこと） 【計画・運用】 1. 事前講習が参考(自衛消防隊の活動要領)(K.H) 【実施内容】 2. 複数の役割を訓練で行なったこと(S.K 2) 3. 建物の安全確認の訓練(S.K 2) 4. 担架の搬送訓練(S.K 2) 5. 建物被害確認(H.S) 6. 建物被害確認の実施(K.T) 7. 担架搬送が体験できた(K.S 1) 【ツール】 8. エリア対応支援システムの稼働(K.T)		Try（Problemに対する改善策、Keepを継続する工夫） 【建物被害】 1. 信頼性を高めるためセミナー？(Y.S) 2. iPadの講習(Y.S) 3. 安全確認タブレットの使用に慣れない人でも見ればすぐわかるようにしてほしい(S.K 2) 4. 建物の被害確認要領の教養が必要(K.H) 5. 建物被害判定方法の確立、ノンプロによる判断？(K.T) 6. 建物被害でiPadは簡易マニュアルが付属しているか(S.K 1) 【情報】 7. 情報伝達・収集の進め方の研修(重要度含む)(K.H) 8. 情報提供で地区隊本部のボード等で把握できるよう(S.K 1) 9. 情報共有手法の検討(H.S) 10. 班員の班長に対する報告・連携を徹底する(S.K 2) 【役割】 11. 時間が余っている人もいたので必ずしも役割に固執しないで行動してもよいと思う(S.K 2) 12. 各々の役割はあっても絶対に優先すべき人の生命身体にかかわる事項は、最初に皆に伝えてほしい(S.K 2) 13. 優先順位を気にしない判断の容認？基本動作前提？(K.T) 14. 役割より優先する際の基本的な指標(Y.S) 1. 人命 2. 消火活動 3. …(ケースバイケースだが) 15. 役割の人数配分の工夫(Y.S)	
Problem（問題点、不満） 【実施内容】 1. 担架の搬送の際の声かけがない(S.K 2) 2. 本部の様子がよく分らない(S.K 2) 3. 地区隊と本部隊の情報共有(H.S) 4. 火災の情報が伝わってこなかった(S.K 1) 5. 訓練想定が不明の部分があった(K.H) 6. 優先事項の徹底(Y.S) 【ツール】 7. 安全確認の際のiPadの使い方がよく分らない(S.K 2) 8. タブレット操作(Y.S)		判定の簡素化 共通言語を作る 役割の優先順位の徹底	

図 69 KPTフォーマットによる検証結果（自衛消防訓練2班（地区隊））

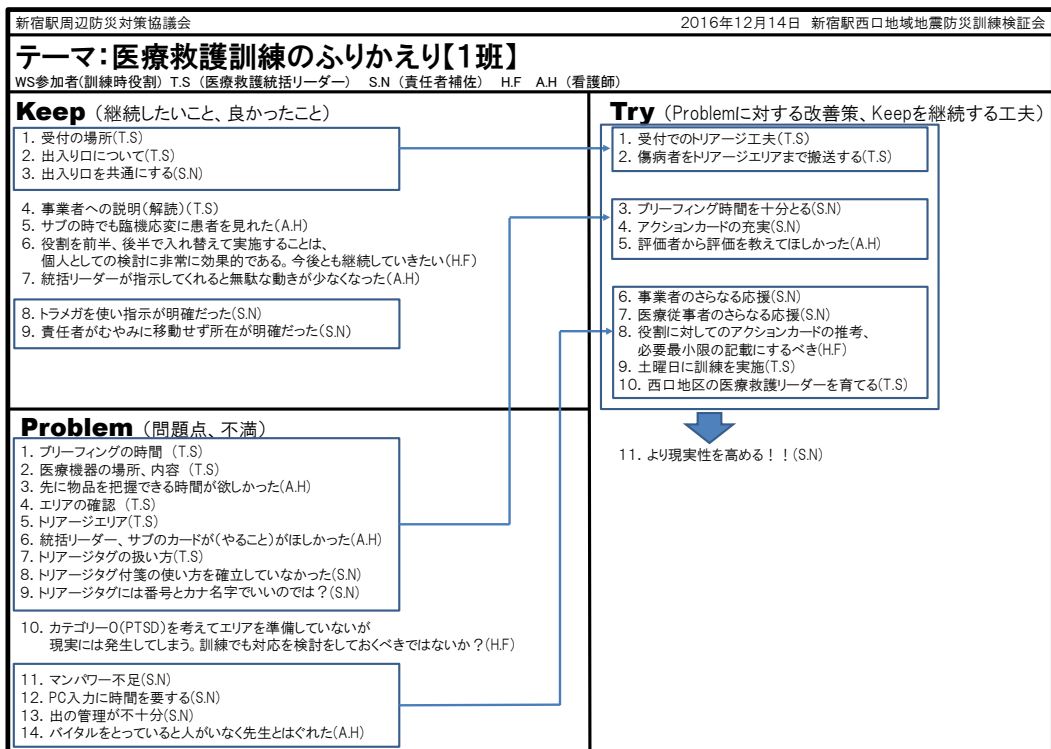


図 70 KPTフォーマットによる検証結果(医療救護訓練1班)

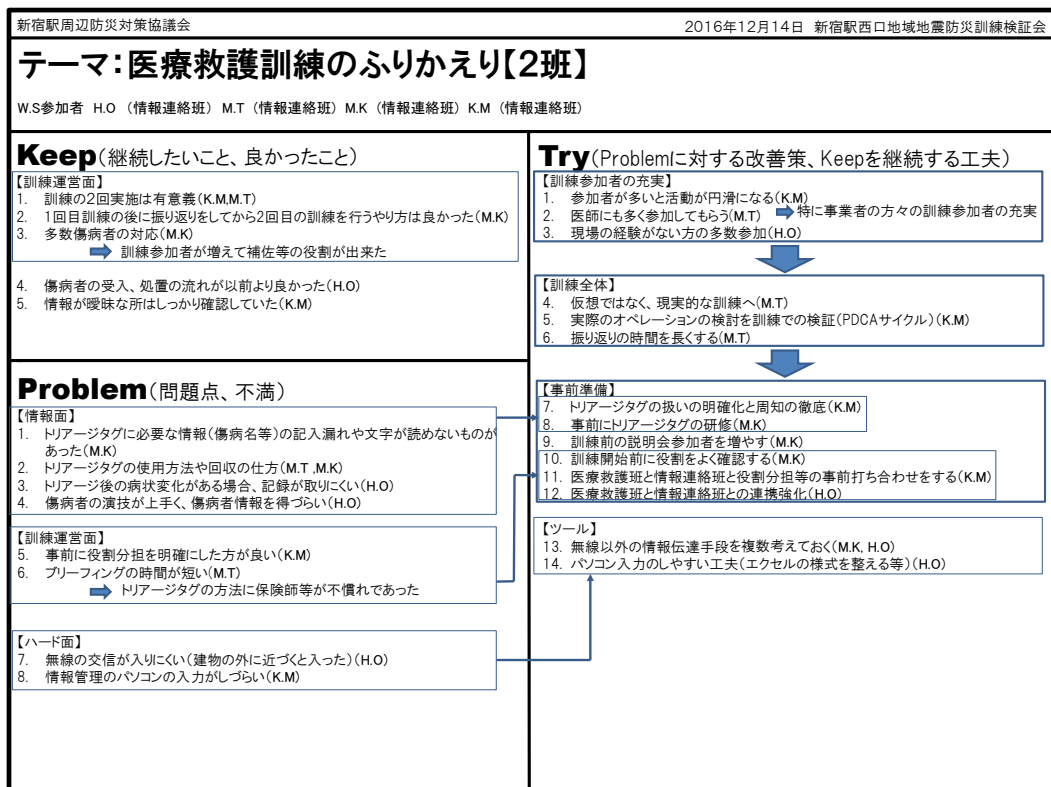


図 71 KPTフォーマットによる検証結果(医療救護訓練2班)

新宿駅周辺防災対策協議会

2016年12月14日 新宿駅西口地域地震防災訓練検証会

テーマ：西口現地本部訓練のふりかえり

WS参加者：T.I(本部長)・E.A(避難者受け入れと誘導)・O.M(情報共有班)・M.K(情報共有班)・H.S(情報共有班)

Keep(継続したいこと、良かったこと)

[K1 情報発信手段の多量化]

無線導入(E.A)

エリアシステム導入(E.A)

システムからの情報配信(H.S)

エリア対応支援システムは便利(T.I)

メールによる情報配信(O.M)

[K2 情報提供手段の活用]

サイネージの導入(E.A)

サイネージを用いた誘導(H.S)

サイネージによる誘導(O.M)

[K3 訓練による効果]

訓練を体験できたことは非常に有意義(T.I)

西口現地本部の役割を理解できた(T.I)

[K4 情報整理様式の活用]

取りまとめ様式は便利(一部改善は必要)(T.I)

Problem(問題点、不満)

[P1 MCA無線の課題]

無線で入った情報がシステムに側に反映されているかわかりづらい(M.K)

無線がつながりにくい(E.A)

無線とシステムによる情報流入で最新の情報かどうか分からない(M.K)

無線で欲しい情報が入らない(E.A)

情報手段の通信機器の通信状態が悪い(T.I)

[P2 システムの課題]

エリアシステムがダウンしてしまう(E.A)

エリアシステム登録が手間(E.A)

システムのセッションtimeoutまでの時間が短い(O.M)

エリアシステムでは行動を勝手にしてしまうのでは(E.A)

電源(O.M)

システムのアカウントの誤登録対応(O.M)

多言語化・ユニバーサルデザイン(O.M)

[P3 本部運営上の課題]

本部内の情報共有(T.I)

各班の役割が不明確(T.I)

掲示板は近くにある方がいい(T.I)

ツールは事前の利用法の説明・講習が必要(T.I)

ボードを書く人が足りない(M.K)

システム入力とホワイトボードに書く人の情報共有(H.S)

システムへの入力の際に誰がどの担当をしているのか分からない(H.S)

[P4 情報伝達手段の不足]

サイネージが少ない(E.A)

[P5 様式の課題]

地図の利用・サイズはもっと大きく書き込みやすいものを(T.I)

ToDoリストが未活用(T.I)

Try(Problemに対する改善策、Keepを継続する工夫)

[事前研修講習会の実施] P1・P2に対して

班の役割の事前研修(時間)が必要(T.I)

取りまとめ様式システム等事前のツール利用の研修が必要(T.I)

[各ツールの運用] P1・P2に対して

システムの更新時に指示を仰ぐ(M.K)

欲しい情報本部側でリスト化する(M.K)

マスター時計の導入・情報記録時に時刻を記入する(O.M)

[システム改善と実用化] K1・P2に対して

エリア対応支援システムの実現(T.I)

システム普及周知(事前のアカウント登録)(E.A)

自家発電機(E.A)

システムのクラウド化(M.K)

システムのチューニング(O.M)

アカウント登録法の何らかの改善(O.M)

[本部運営・体制づくり] P3に対して

他の事業者等への呼びかけ(H.S)

本部の人員増員(E.A)

現地本部確保の仕組みづくり(T.I)

各企業間、自治体などとの連携の仕組みづくり(T.I)

訓練結果から担当役の人数を整理する(H.S)

班編成の見直し(T.I)

各班で情報をまとめる人をつくる(M.K)

情報共有班で無線を受ける(M.K)

[日常からの取り組み・活動] P3に対して

無線の日常利用・定期確認(訓練)(E.A)

無線チャンネル表の共有(O.M)

ツールを普段から使用できるものに(M.K)

訓練の階数を増やす(M.K)

[サイネージなど情報伝達手段の拡充] K2・P4に対して

サイネージ(東京都のものを使用)⇒協力依頼(E.A)

使用するサイネージの把握(H.S)

同型のサイネージの導入・看板の利用(O.M)

デジタルサイネージ等誘導するための案内を増やす(T.I)

[様式などツールの改善] K4・P5に対して

取りまとめ様式は記入スペースの拡大・複数用意を(T.I)

地図の改善(拡大・色をおさえて見易さを確保)(T.I)

各種掲示は身近な場所に設置(T.I)

図 72 KPTフォーマットによる検証結果（西口現地本部訓練）